



## 会話の秋

保育長 川井 直子

日が暮れるのが一段と早くなり、秋から冬へと変わりゆくこの頃。衣服を調整しながら、一段と寒くなる季節に負けず、元気いっぱい戸外遊びを楽しんでいきたいと思えます。

運動会を終え子どもたちは自分たちが演技した種目を小さなクラスの子もたちと一緒に遊びながら楽しさを伝えています。そんな姿からご家庭で子どもたちの姿をたくさんほめて認めてくださる言葉がけがあったのだろうと感じられました。ご家族からの言葉がけから、子どもたちは自信をつけ「楽しさを伝えたい。」と小さい子どもたちとの関わりへと広がりを見せているのだと思えます。

先日、文京区保幼小中連携第2ブロックでの篠原孝子先生の講演会がありました。講演会の中で、乳幼児の育ちには「安心」と「挑戦」の繰り返しが大切ということのお話をされていました。子どもたちは安心を感じ自己表現をする中で、友だちとの関わりへと広がっていきます。

しかし、楽しいことばかりではなく、いざこざや葛藤が起こります。大人から見ると「けんか」や「トラブル」なので早く解決したいため「ごめんね」を言わせがちです。「ごめんね」を言う事よりも自分の気持ち以外に相手にも気持ちがあることや、どのように伝えたら伝わるのか？友だちとの間で折り合いをつけていく経験が大切な時期と改めて学びました。

子どもたちの心の折り合いや葛藤は子どもたちにしか出来ないものです。大人が解決してしまうことは子どもたちの心の成長には繋がりません。

子どもたちが一人で解決することが難しい時は「どうしたらいいかな？」「〇〇ちゃんがされたらどんな気持ちになるかな？」など子どもたちが考えた言葉を大切に聞いていきたいと思えます。保育園、幼稚園では毎日の送迎で保護者の方にお会いできるので何か心配なこと等ありましたらご相談ください。

就学前にお子さんとの会話を大切にすることで、小学校での出来事なども伝えてくれる関係になれるかと思えます。今月は「会話の秋」を楽しみましょう。

